

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：ジャカルタ邦人向け公開講演会 『現代インドネシアのイスラームを知る』

日時：2018年3月17日（土）13:30～16:10（開場 13:15～）

場所：国際交流基金ジャカルタ日本文化センター

参加者：120名（講演者含む）

## 内容

イスラームはどのようにインドネシアの政治や人々の暮らしを形作っているのか。またインドネシアのイスラームにはどんな特徴があるのか。そして、過去と現在では、イスラームの有り方はどのように変化しているのか。これらの疑問について、政治と文化の2つの側面から考える講演会を、ジャカルタ在住の邦人向けに開催した。定員を上回る参加応募があり、大変盛況であった。

冒頭で国際交流基金ジャカルタ日本文化センターの塚本倫久所長より挨拶がなされ、今回の企画が、日本インドネシア国交樹立60周年を祝うものの一つとしても位置づけられることなどが紹介された。次にAA研コタキナバル・リエゾンオフィス（KKLO）の拠点長床呂郁哉所員から挨拶と趣旨説明があった。本講演会はKKLOのアウトリーチ活動の一端としてKKLOに関係する研究者の研究活動の成果の一端を一般の（専門家以外の）方々に公開発信することを目的としており、ジャカルタでの開催は今回が2回目となる。

一つ目の講演は、早稲田大学大学院の見市建准教授による『イスラームと政治：アホック抗議デモとは何だったのか』であった。2016年末から2017年初頭にかけて、ジャカルタでは「イスラーム防衛」の名の下に、華人キリスト教徒であるアホック前知事への抗議デモが繰り返された。その結果、アホックは落選したうえ、宗教冒瀆罪で有罪判決を受けた。アホック抗議デモとは何だったのだろうか。今回の講演では、インドネシアのイスラームの潮流について歴史的な視点から概観したうえで、近年のジャカルタ内外における宗教動向を踏まえ、また2018年統一地方選、2019年大統領選を展望しつつ解説した。

もう一つの講演は、島根県立大学の塩谷もも准教授による『儀礼と料理にみるジャワの人々のつながり：女性に焦点をあてて』であった。ジャワでは、儀礼と料理が人々のつながりにおいて大切な意味を持ち、特に結婚式は大勢の女性があつまって、料理の準備をする機会となる。講演では、ご本人のフィールド調査のエピソードからはじまり、特に儀礼に関連して振舞われる料理と、そこに映し出される、あるいはその準備や分配によって実践される人づきあいの在り様を読み解いていった。また、ケータリングの利用といった効率化や、イスラームの影響によって、儀礼の場が大きく姿を変えていることも紹介された。これら2つの講演後には、会場から多数の質問が寄せられ、講演者2名はそれぞれに回答した。

講演会の最後には、国際交流基金の事業である『東南アジア・ムスリム青年との対話 **Talk with Muslims series**』（通称 TAMU プロジェクト）の紹介がなされた。これはムスリムの若手知識人、活動家らを日本に約 10 日間招へいするものである。国際交流基金の藤本迅氏がプロジェクトの概要を説明したのち、2016、2017 年のインドネシア人フェローのなかからリフキ・ファイルズ氏とコティムン・スタンティ氏が、日本を訪れた際の感想、プロジェクトに参加して得られた新たな知見、および今後の活動の抱負等について語った（通訳は吉田ゆか子）。

文責 吉田ゆか子